

令和7年度
第2回垂水市介護保険運営協議会

令和7年11月17日（月）午後4時～

垂水市市民館 大ホール

会 次 第

1 開 会

2 福祉課長あいさつ

3 議 題

- (1) 第 10 期介護保険事業計画策定のスケジュールについて
- (2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、高齢者等実態調査について
- (3) 本市の介護保険事業の特徴について
- (4) 高齢者自立支援施策の進捗状況

4 その他

5 閉 会

議題（１）

第 10 期介護保険事業計画策定のスケジュールについて

第 10 期介護保険事業計画策定のタイムスケジュール（案）

計画年度・・・令和 9 年度～令和 11 年度

令和 7 年度（介護予防日常生活圏域ニーズ調査・高齢者等実態調査）

年・月	内容
令和 7 年 10 月	入札 垂水市高齢者保健福祉計画及び第 10 期介護保険事業 計画策定業務委託 調査説明会（介護職員向け）
11 月	調査票設計
12 月	調査票発送・回答
令和 8 年 1 月	調査票回収・集計・分析
3 月	報告書の完成 県へ調査結果を提出

令和 8 年度（介護保険事業計画の策定）

年・月	内容
令和 8 年 5 月	介護事業所実態調査
7 月	第 1 回介護保険運営協議会 第 9 期計画の目標と取組の進捗状況 （令和 7 年度実績） 介護予防日常生活圏域ニーズ調査・高齢者等実態調 査の報告
8 月	地区別住民懇話会 地域課題の整理 見込量の算定 推計人口、要介護認定者数、給付費、介護保険料
9 月	計画骨子（案）の完成 事業量調査 第 10 期計画期間中の介護事業所の事業展開の確認 第 2 回介護保険運営協議会 第 10 期計画の骨子案 地区別住民懇話会の報告
10 月	計画素案の完成 県ヒアリング

年・月	内容
令和8年11月	第3回介護保険運営協議会 第10期計画素案 第9期計画の検証報告 12月議会 パブリックコメント実施の説明
12月	計画案に対するパブリックコメントの実施
令和9年1月	第4回介護保険運営協議会 パブリックコメントの結果報告 取組と目標の設定 介護保険料の算定、他市町との比較 介護保険条例の一部を改正する条例の議案提出
2月	3月議会 第10期介護保険事業計画の報告 介護保険条例の一部を改正する条例を上程
3月	第10期計画策定 成果品の納品
4月	第10期計画スタート

議題（２）

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、高齢者等実態調査について

根拠

- 1 介護保険法
第 117 条第 1 項
市町村は、基本指針に即して、三年に一期とする当該市町村が行う介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施に関する計画を定めるものとする。
- 2 介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するための基本的な指針
 - 第二 市町村介護保険事業計画の作成に関する事項
 - 一 市町村介護保険事業計画の作成に関する基本的事項
 - 2 要介護者等地域の実態の把握
 - (三) 調査の実施
市町村は、被保険者のサービスの利用に関する意向等を把握するとともに自らが定める区域ごとに被保険者の心身の状況、その置かれている環境その他の事情等、要介護者等の実態に関する調査の実施に努めるものとする。なお、その際は、特に、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を活用することが重要である。

目的

第 10 期介護保険事業計画（令和 9～11 年度）を策定するに当たり、高齢者の実態や意識・意向を調査・分析するための基礎調査として実施するものである。

調査の種類

調査事項	高齢者等実態調査 (若年者)	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査・高齢者実態調査 (一般高齢者)	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査・高齢者実態調査 (在宅要介護者)
設問数	県 46 問	国 52 問 + 県 41 問	国 54 問 + 県 58 問
対象者	要介護認定等を受けていない 40～64 歳の者	要介護認定を受けていない 65 歳以上の者	要介護認定者（施設等に入所していない者）
必要回答数	500 件	500 件	400 件

前回との違い

前回までは若年者と一般高齢者は民生委員が、在宅要介護者は各事業所の介護職員が、対象者宅を訪問するなどして、聞き取り調査を実施した。

共生社会の実現を推進するための認知症基本法が令和 6 年 1 月に施行されたことを受けて認知症に関する設問が増加したため、民生委員や介護職員の負担軽減のために、今回は無作為抽出の上で郵送による調査及び回収を行う。

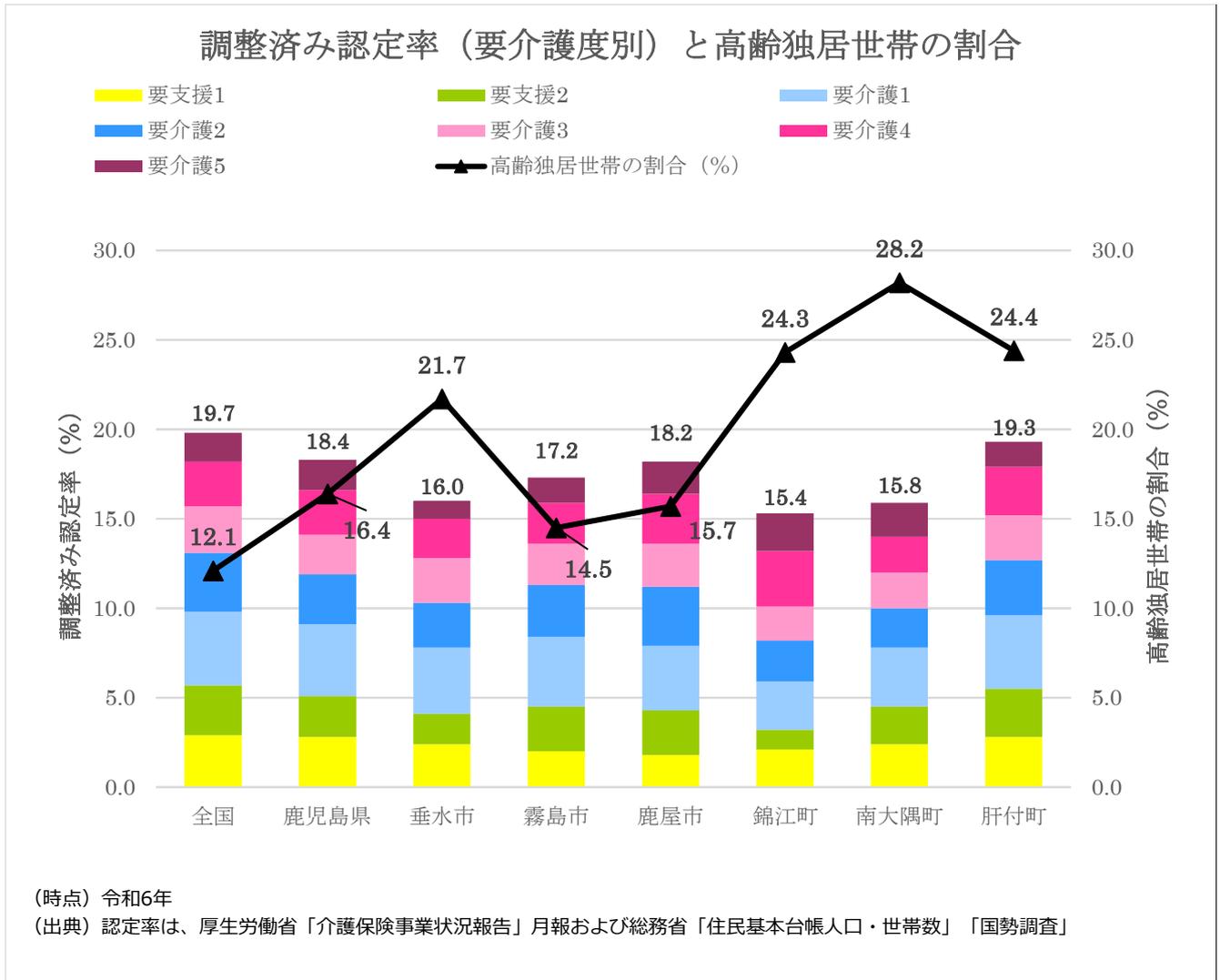
議題（３）

本市の介護保険事業の特徴について

見える化システムとは

国が運営するシステム（一部の機能を除いて誰でも閲覧可能）であり、介護保険や地域包括ケアシステムに関する情報が一元化されている。必要とする情報をグラフ等により見やすい形で提供され地域分析などに役立つ。

1 調整済み認定率と高齢独居世帯の割合

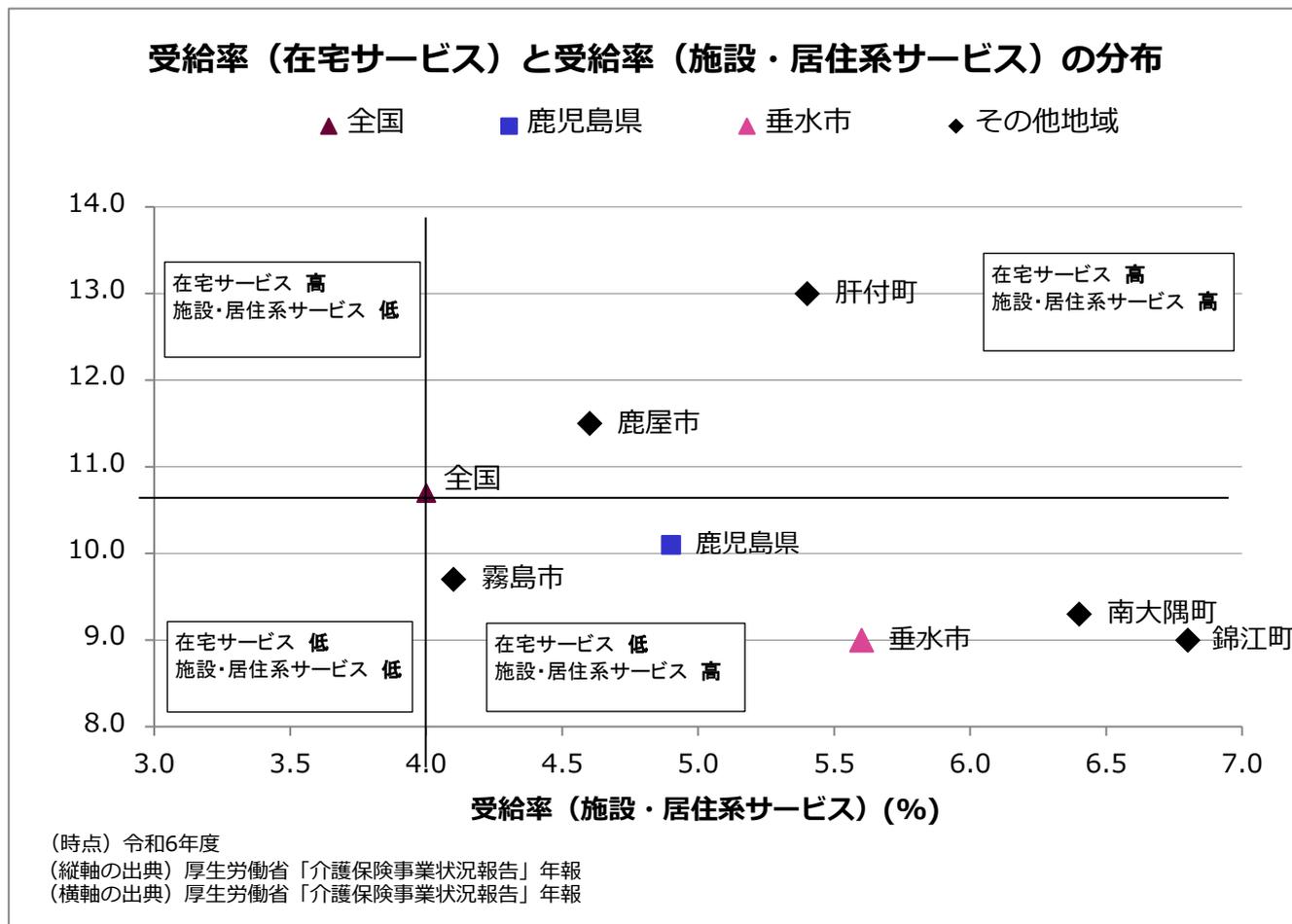


※認定率とは、第1号被保険者数に対する介護認定者数の割合。調整済み認定率とは、認定率の大小に大きな影響を及ぼす第1号被保険者の性・年齢別人構成の影響を除外したもの。後期高齢者の割合が高い地域は調整することで認定率が下がる。

(特徴)

- 本市の認定率は、全国平均や県平均よりも低く、また大隅半島内近隣市町村と比較しても低い部類に入る。
- 住民への周知や要介護認定のプロセスに大きな違いや特徴は見当たらないため、介護認定事務の適正化（真に介護サービスが必要な方が介護認定を受けていること）が図られているといえる。

2 在宅サービスと施設・居住系サービスのバランス



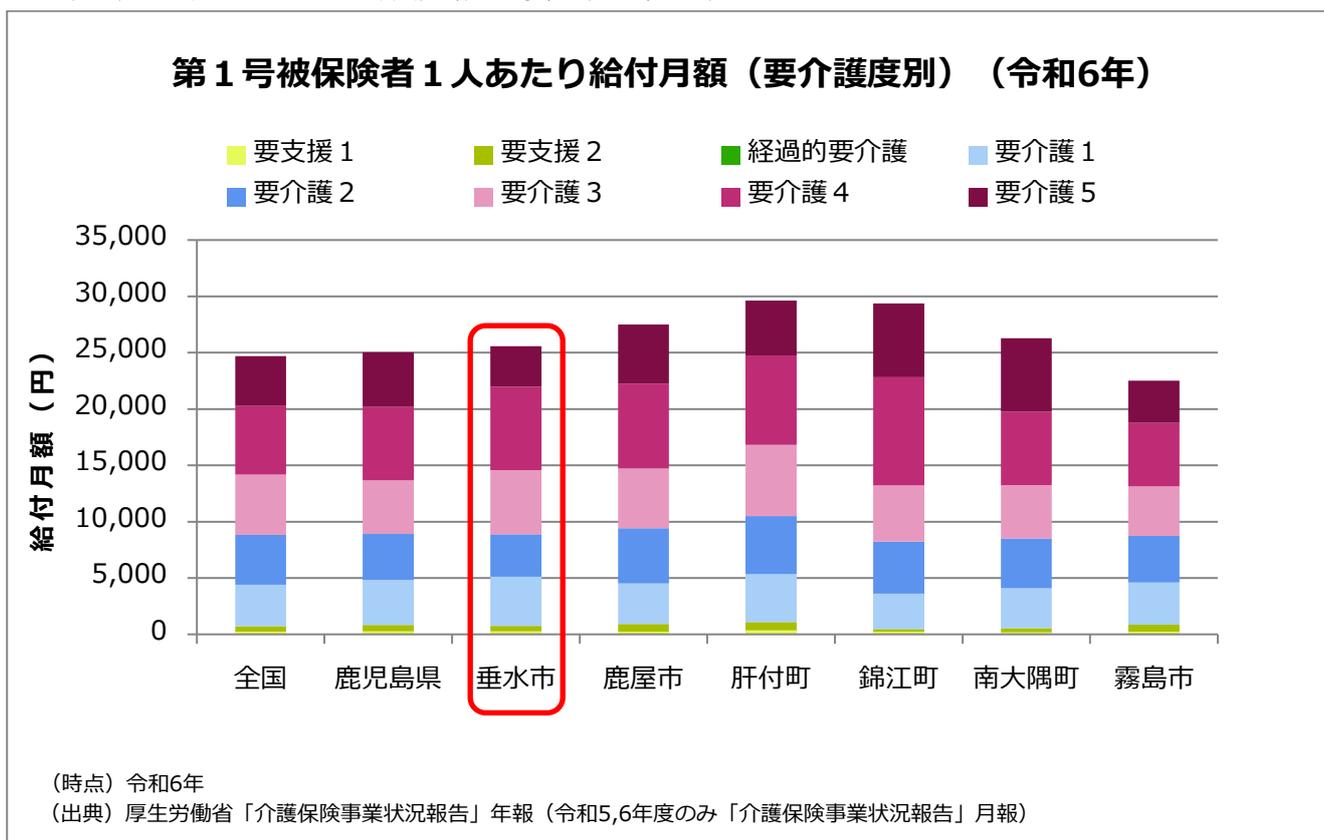
※受給率とは、第1号被保険者数に対する利用者数の割合。

(特徴)

- 全国平均と比較すると、本市は施設・居住系サービスの受給率が高く、在宅サービスの受給率が低い。また、鹿児島県全体としても施設・居住系サービスの受給率が高いことが伺える。
- 施設・住居系サービスの受給率が高い自治体は、高齢独居世帯の割合も高い傾向にあり、一定の相間が伺える。

3 保険給付費

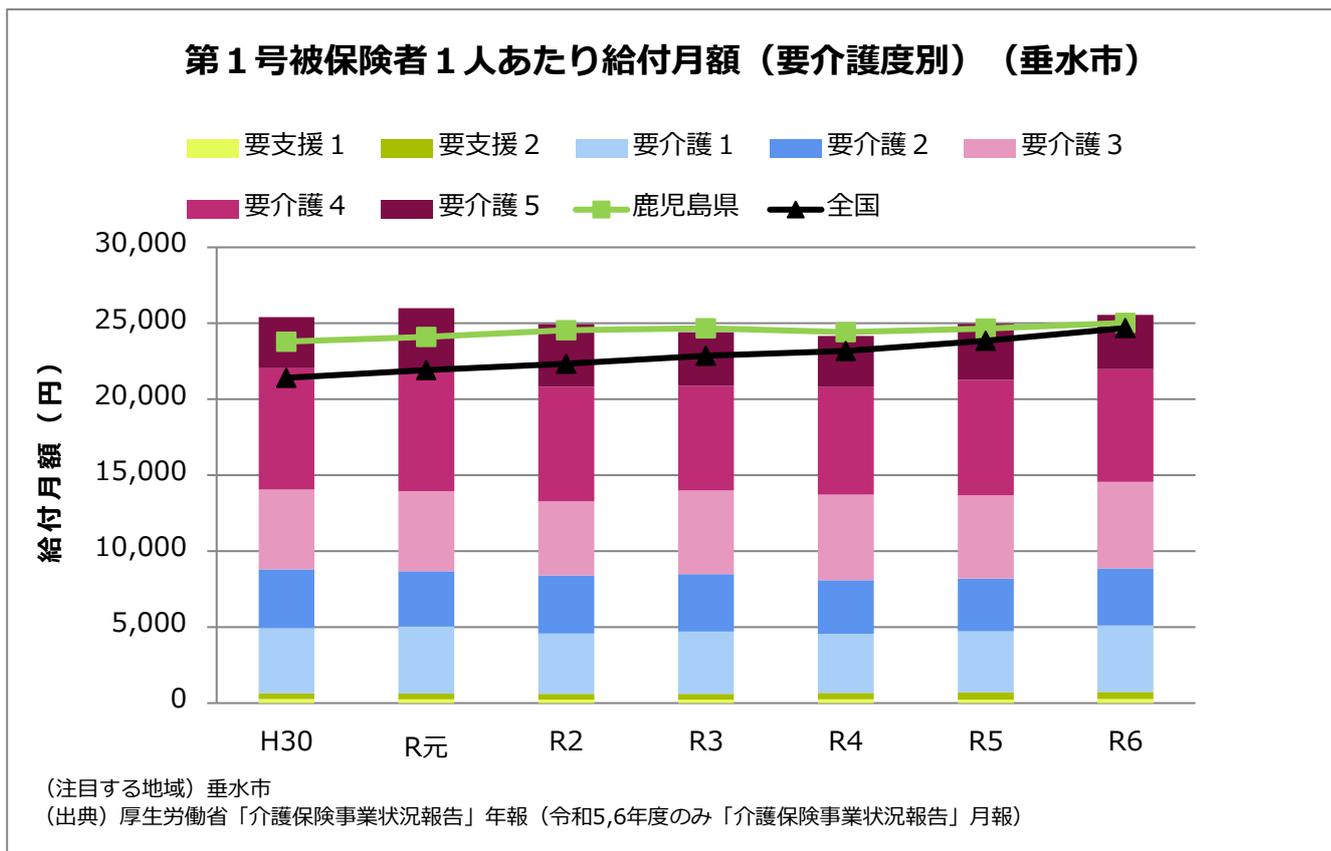
(1) 一人当たりの保険給付費（地域別）



(特徴)

- 本市の第1号被保険者あたりの給付月額は、ほぼ県平均と変わらない。
- 大隅半島の近隣市町村と比べて低い。
- 要支援と要介護では給付月額に大きな差がある。なかでも要介護3以上の被保険者の給付月額が高い傾向にある。

(2) 被保険者一人当たりの給付月額（時系列）



(特徴)

- 時系列で見ると、令和2～4年は減少するも、令和5年から微増している。県や全国平均に比べると増加率もおだやか。
- 減少した要因は、感染症の影響によりサービス利用を控えた結果と考えられる。さらに、令和5年5月には新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、介護サービスの利用頻度が以前に戻ったことにより増加に転じたもの。

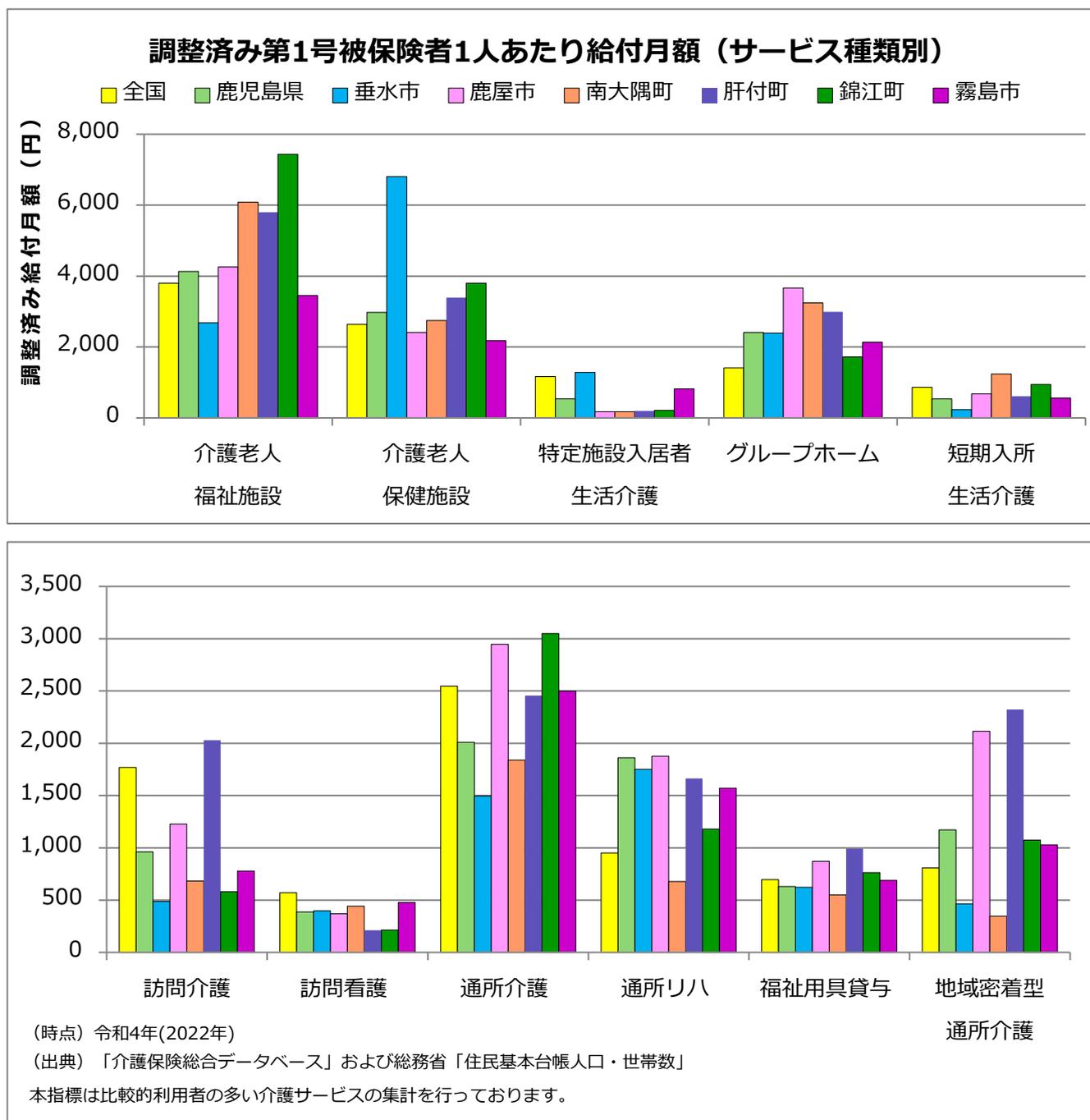
〈参考〉

第9期月額介護保険料基準額（単位：円）

自治体名	第9期基準額	第8期基準額	上げ幅
垂水市	6,000	6,200	-200
鹿屋市	6,700	6,700	0
肝付町	7,200	7,200	0
錦江町	6,300	6,300	0
南大隅町	6,200	6,400	0
霧島市	5,800	6,150	-350

- 県内では19市中6番目に低く、全自治体（44市町村）中14番目に低い。

(3) サービス別の一人当たり給付月額



※利用者の多い介護サービスを抜き出して表示している。

(特徴)

- 同じ施設系サービスでも、本市の介護老人福祉施設における一人当たり給付月額是他市と比べて低く、介護老人保健施設では高い。
- 在宅系サービスでは、訪問看護や福祉用具貸与において、自治体間に大きな差がみられない。

議題（４）

高齢者自立支援施策の進捗状況

垂水市における高齢者自立支援施策の目標値及び進捗状況（11月1日現在）

重点施策	目標項目	内容	目標指数	R7年度 現在	R8年度 目標
健康づくりの推進・重度化防止	介護予防事業の取組	介護予防に係る教室や講演会等を開催し、通いの場等の充実を図ります。	通いの場への65歳以上の参加者数（延べ人数）	737人	700人
	地域リハビリテーション専門職等の関与	理学療法士等の専門職が関与することで高齢者の自立支援・重度化防止に取り組めます。	理学療法士等の専門職が関与した利用者数	2人	20人
	たるみプロジェクトの推進	鹿児島大学と共同で継続的に、高齢者等の健康増進・介護予防を推進するとともに、医療・介護職等の人材育成につなげます。	健康チェック参加者数	812人 (見込み)	1,500人
認知症高齢者対策	認知症サポーターの育成	地域の中で認知症への正しい理解を深め、支援する取組としてサポーターの養成に努めます。	サポーター養成数（延べ人数）	1,510人	1,200人
	チームオレンジの推進	近隣の認知症サポーターがチームを組み、認知症の方の社会参画の確保を推進します。	チーム数	2チーム	5チーム
在宅医療の連携	在宅医療・介護の一体的な提供体制の構築	医療・介護の切れ目ないサービス提供を実施するため医療機関と介護事業所の連携を図ります。	入退院時情報連携シート発出数	入院時 315件 退院時 401件	入院時 500件 退院時 500件
地域包括ケアシステムの充実	認知症高齢者等に対する生活支援体制の連携	認知症等になっても地域で暮らし続けられるよう、情報交換等を行う協議体の設置を推進します。	協議体数	9か所	9か所
	医療・介護・障害分野等との連携強化	保健事業と介護予防の一体的な実施に向けて関係課と連携します。	高齢者が集う場所等への関係課との事業協働実施数	8回	24回
介護給付適正化	ケアプラン点検	地域密着型事業所等の運営指導時等にケアプラン点検を行います。	点検件数	133件	250件
	要介護認定の適正化	介護保険申請を適正に行います。	介護保険サービスを利用していない認定者への状況調査数	19件	30件
	地域密着型事業所等の運営指導	運営指導を計画的に実施し、介護報酬請求等の適正化に努めます。	計画的に運営指導を実施する事業所数	3事業所	5事業所

参考資料 「本市の有料老人ホームについて」

有料老人ホームとは

高齢者が暮らしやすいように配慮された「住まい」。利用者が快適に暮らせるよう、以下のようなサービス（複数も可）を提供している施設。

- ①食事の提供
- ②介護（入浴・排泄・食事）の提供
- ③洗濯・掃除等の家事の供与
- ④健康管理

有料老人ホームの種類

	住宅型有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム	健康型有料老人ホーム
概要	自立～要介護の高齢者が生活支援を受けて生活する	自立～介護が必要な高齢者が介護・生活支援を受けて生活する	自立状態の高齢者が家事や食事のサポートを受けて生活する
提供サービス	食事・洗濯・清掃等の生活支援	生活支援のほか、身体介護・機能訓練・レクリエーション・サークル活動など	家事サポートや食事等のサービス

本市の有料老人ホームの状況（令和7年11月1日時点）

1 本市に所在する有料老人ホーム

施設名	略称	入所者	定員	待機者
有料老人ホーム ほほえみ	ほほえみ	4人	6人	0人
住宅型有料老人ホーム みらい	みらい	8人	8人	5人
住宅型有料老人ホーム 和の泉	和の泉	11人	18人	0人

2 要介護度別の入居状況（単位：人）

施設名	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	市外保険者
ほほえみ		1	2	1				
みらい					2	4	2	
和の泉		1	2		2	4	1	1

3 年齢別の入居状況

施設名	～74歳	75～84歳	85～94歳	95歳～	平均年齢	市外保険者
ほほえみ			4人		91歳	
みらい		2人	4人	2人	92歳	
和の泉	1人	2人	7人		85歳	1人

4 入居年数

施設名	2年以上	最長年数
ほほえみ	1人	5年9ヶ月
みらい	2人	7年9ヶ月
和の泉	9人	6年11ヶ月

5 特徴

- 厚生労働省によると令和6年の日本人の平均寿命は、男性81.09歳、女性87.13歳。3施設とも85歳以上の入居者が多く、ほとんどの入居者が平均寿命を超えている。
- 3施設中2施設で空きがある状態のため、本市有料老人ホームへの入所は可能である。
- 全国的に有料老人ホームの施設数は右肩上がり増加しており、定員数はここ10年で約2倍増加したといわれている。高齢者の住環境のニーズに柔軟に対応できることが利点として挙げられる。
- 退所理由で最も多いのが死亡であるが、本市の有料老人ホームでは看取りまで行っていない。ほとんどの方が病院で最期を迎える。

【参考資料】

～消滅可能性自治体の高齢者福祉を支える

持続可能な介護経営戦略～

第一部

介護施設の
未来を支える
業務変革

SHOGO KITASAKO

ご挨拶

「私自身、無資格・未経験の介護職員からスタートしてバックオフィス管理まで経験してきました。

養護老人ホーム 垂水華厳園では、人口減少問題を意識して、令和2年度（コロナ禍）から『入所者・職員の相互利益生み出す業務改善』をテーマに掲げ、少しずつ業務効率化を進めてきました。スマートフォンと連携できるコールシステムの導入を皮切りにICT化と生産性の向上に向けた取り組みを開始し、5年目を迎えています。

高い再現性と波及性を備えた業務変革プロセスの構築については、自信があります。

業務改善スキルを地域間で共有し、地域福祉の持続可能性を高めることを目的として、本研修会の講演依頼を受けました。

私がお手伝いできるのは、現場と経営の両方を理解した実践型の改善です。

採用と定着、人件費の最適化、ICT等を使った業務効率化を一体的に進めることで、少しずつでも確実に改善が可能になります。

現状の課題を“見える化”するだけでも、組織運営はグッと楽になり、展望が開けます。」

介護人材不足の背景は複合的：

- ①人口構造の変化
- ②処遇・労働環境の厳しさ
- ③社会的評価の低さ
- ④離職率の高さ
- ⑤地域格差
- ⑥制度・技術の遅れ

→ 採用強化だけではなく、各事業所の自助努力
による業務効率化・ICT活用・職場環境改善が
不可欠

問題提起

前記したような背景により、長年にわたって、介護施設で働く自分たち自身が無意識に介護業界の
人手不足感を増幅させ、人手不足という定量課題が虚像化してしまっていないか。

そもそも

マンパワーに関する

『**足りる**』 『**足りない**』

のラインは

どこに存在していますか？

どうやって計測しているの

ですか？



成果イメージ

Before

- 「人手不足でどうしようもない」
- 「生産性向上とかICTが必要なのはわかってるけど、どうやればいいの？」
- 「人件費と収入のバランスが不安定で先行きが不安」

課題は山積みだが、何からどう手を付けて良いかわからない。

ただでさえ、既存業務で忙しいの((+_+))
やっぱり、人手不足が原因でしょっ💩

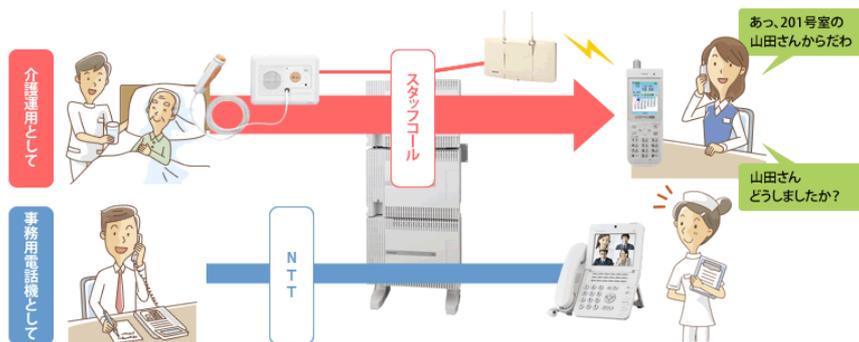
After

- 「生産性が大幅に向上」
- 「マンパワー確保」
- 「収支改善」

業務変革のスキルが身について、人手が問題じゃないことに気が付いた。組織風土に『知恵と工夫』が加わり、生産性が向上し、マンパワーが安定し、収支状況も改善した!(^^)!

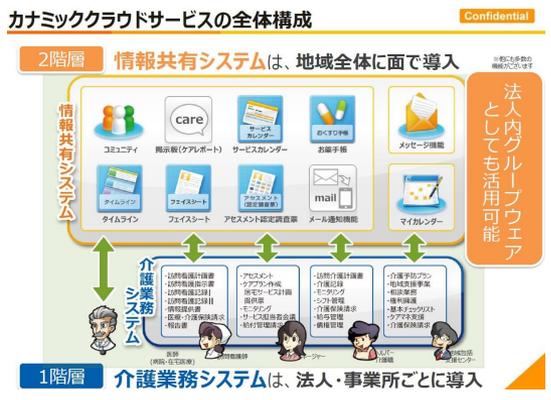
「現場改善 × 経営改善 × 人材活用」を**一体的**に
提案できる現場起点の実践型サポート

業務効率化を図るためにR3年度に導入した機器



年度	導入設備	改善前の状況	代表的な課題	導入の狙い	導入効果イメージ
R3	ネットワーク環境整備 緊急コールシステム スマートフォン 見守りカメラ インカムシステム	<ul style="list-style-type: none"> 昭和後期～平成初期のコールシステム。 各居室前に設置された点灯ランプか本体の表示を確認しない限り、どの居室からのコールかわからない。 各居室前に設置されたボタンか本体のボタンを押さない限り、コール音は鳴り止まない。 	<ul style="list-style-type: none"> どの居室からのコールか移動して確認するムダ。 居室に到着しない限り、要件や緊急性の有無はわからないため、取り組んでいた業務の手を止め、とりあえず急いで向かうムダ。 	<ul style="list-style-type: none"> コール発生時に『誰』『要件』『状況』がわかる。 各機器を連携させ、コール対応・職員間の連携を効率化し、ムダな手間を省く。 	<u>2～5分/1コール当たり</u> <u>のムダを削減</u>
	見守りカメラ ビデオレコーダー	<ul style="list-style-type: none"> 転倒などの目視できなかった事故が発生した際は、本人談や仮説・推察等の不確かな情報に基づき、再発防止のためのミーティングや事故報告書の作成を行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 不確かな情報に基づくミーティング内に潜むムダ。そのミーティングに基づき作成する事故報告書のムダ。 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待・身体拘束・事故の防止機能を強化する。事故内容等が映像により明白になり、リスクマネジメントに係る時間を大幅に削減。 	<u>30分～1時間/事故1件当たり</u> <u>のムダを削減</u>

更なる業務効率化を図るためにR4年度に導入した 介護記録システムと完全調理済食品



【納品】

【検品】

【食事準備】

STEP1 温める

STEP2 盛り付け

STEP3 完成

株式会社 **ナリコマ** エンタープライズ

年度	導入設備	改善前の状況	代表的な課題	導入の狙い	導入効果イメージ
R4	カナミッククラウドサービス	随時、メモを残し、まとめてパソコン入力していた。	メモ&入力の2度手間。	携帯しているスマートフォンで随時、その場で入力（音声入力も可能）。	30分～1時間/1職員当たりの時間短縮
	「ナリコマエンタープライズ（クックチルシステム）」	【直営クックサーブ方式】	入所者像の変遷に伴い、形態食の必要性や嗜好の変化等、ニーズも多様化するなか、毎食の提供時間までに作り終えることで精一杯の状況だった。	栄養士の事務作業量が大幅にカットされ、衛生管理や栄養ケアマネジメント等の厨房運営業務に注力できる。 調理員の調理技術が不要となり、作業時間も大幅に短縮化されたことで、配膳や下膳、食事状況の観察など、職域拡大が図れる。	400時間/1ヵ月当たりの人件費をカット

R5年度に導入したシステム&ロボット機器



ジョブカンシリーズについて

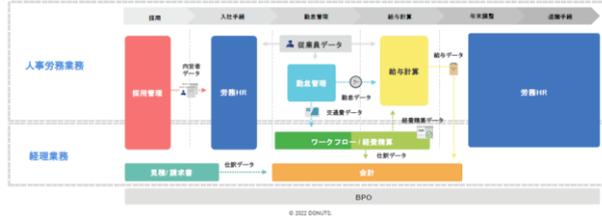
ジョブカン 動画見直し

ジョブカンは、バックオフィス業務を効率化するクラウドERPサービスです。2010年に提供を開始し、2022年現在は全9サービスを展開しています。各サービス間の連携が特徴で、従業員の入社から退職までをサポートします。

充実のシリーズラインナップ



バックオフィスの業務全体をサポート



口座振替サービスの概要

リコーリース株式会社

弊社のネットワークを利用して、電気料金などの公共料にお取引先様の預金口座から貴社の回収金を代行回収(定期的に請求回収を行うお客様におすすめのサービスです！)



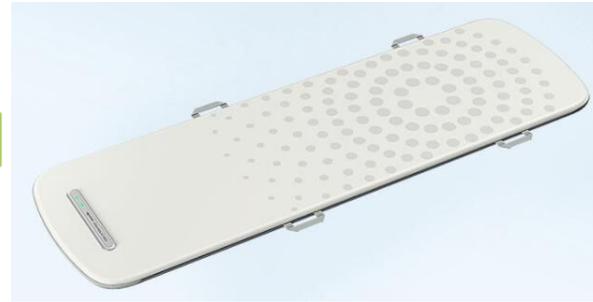
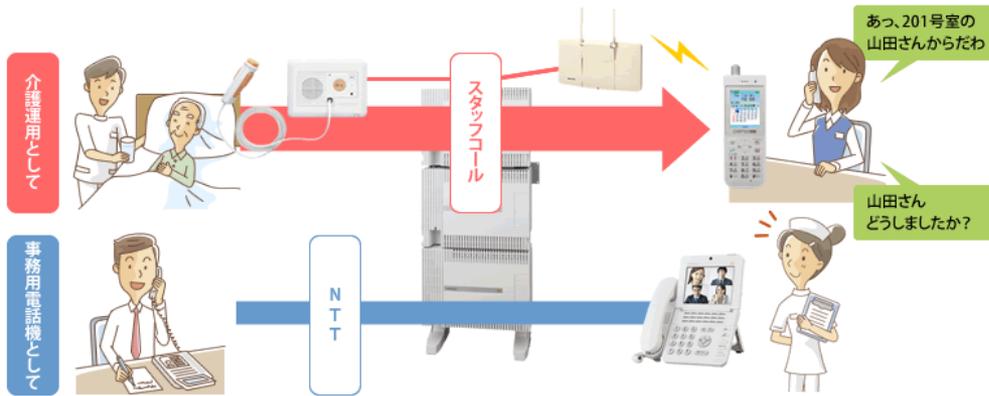
年度	導入設備	改善前の状況	代表的な課題	導入の狙い	導入効果イメージ
R5	掃除ロボット	共有スペースの清掃まで行き届いていなかった。	環境整備を主としたパート職員が不定期に実施していた。	清掃品質の向上及び業務効率化、人件費の削減。	4時間/1日当りの人件費を1/2カット
	ジョブカン	勤怠管理関連の書類はエクセル・ワードで作成し、申請フローは紙ベースだった。	各種書類の作成や申請プロセスが全部門にとってのボトルネックとなっていた。	シフト作成・管理、休暇・残業等の申請・承認フロー、その他各種手続きを含めた対象職員及び事務員双方の事務負担が軽減され、正確かつスピーディーになる。	数値化困難
	口座振替サービス	・預かり口座からの払出 ・事務所窓口での支払 ・口座振込 ・集金	左記各種にムダ・ムラが存在していた。	預かり口座からの払出、窓口業務、手集金等の業務負担が軽減し、業務効率化が上昇する。	数値化困難
	セレーノ	平成リリースの入浴機器	洗髪⇒洗身⇒湯浴みの手順での入浴工程で時間がかかっていた。	洗髪・洗身・湯浴みが同工程で提供でき、入浴の省力・短時間化が図れる。	10分間程度/1名当りの時間短縮

R6年度に導入した機器



年度	導入設備	改善前の状況	代表的な課題	導入の狙い	導入効果イメージ
R6	リヒートウォーマーキャビネット	【直営クックチル基本方式】	提供時間を逆算した食品加熱⇒盛付けの手順工程しか選択できなかった。	最終工程の盛付け作業を前倒して行える冷蔵機能とタイマーによる再加熱機能を備えることで、提供前の必要人員や作業量をコントロールできる。	数値化困難
	セレーノチェアイン	平成リリースの入浴機器	洗髪⇒洗身⇒湯浴みの手順での入浴工程で時間がかかっていた。	洗髪・洗身・湯浴みが同工程で提供でき、入浴の省力・短時間化が図れる。	10分間程度／1名当たりの時間短縮
	ガス式洗濯乾燥機	全自動洗濯機×1 全自動乾燥機×1	洗濯機終了後に乾燥機に入れ替える工程が手間だった。	洗濯から乾燥までが全自動で行え、省力・短時間化が図れる。	5-10分間程度／1洗濯当たりの時間短縮

目標を現実とするにはこれらの機器を使いこなし、知恵を絞り、工夫を重ねることが必要です☆

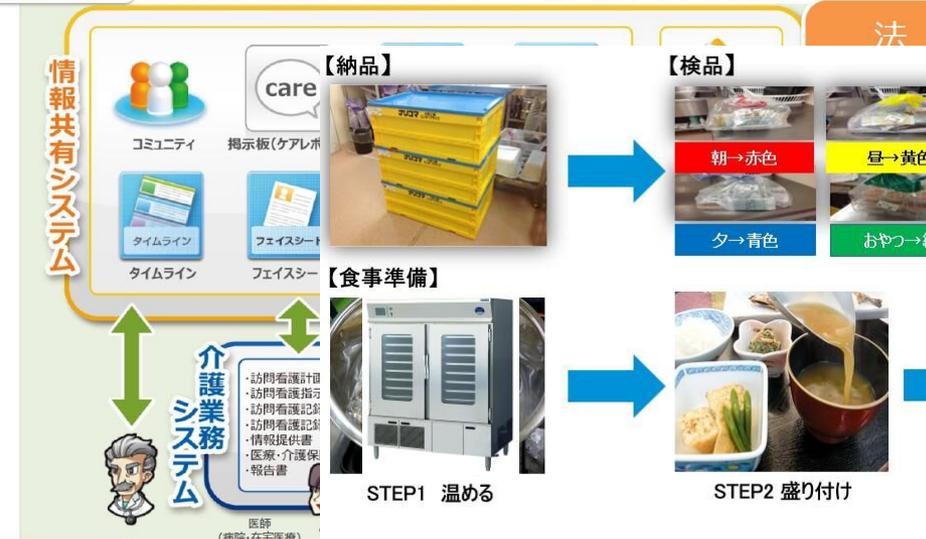


カナミッククラウドサービスの全体構成

Confidential

2階層 情報共有システムは、地域全体に面で導入

※他にも多数の機能がございます



ジョブカン

1階層 介護業務システムは、法人・事業所ごとに導入



株式会社 ナリコマ エンタープライズ

垂水市から始まる

『持続可能な介護モデルへ
挑戦。』

- 人手不足を嘆くのではなく、
知恵と工夫で未来をつくる。

共に未来の介護をつくり、

『地域に福祉を残して行く』チーム

として連携していきましよう！